

第28号



2012. 1月



発行 城里町社会福祉協議会 ☎ 029-288-7013 FAX 029-288-7021 ホームページ <http://www.shirosato-syakyu.com>
編集 広報ボランティアグループ



大網 朝日堂にて (撮影：盛田守氏)

希望

さまざまな問題や課題を抱えている時だからこそ
新しい年が始まるいま、未来の希望を信じて！

新年のごあいさつ



社会福祉法人
城里町社会福祉協議会
会長 阿久津藤男

あけましておめでとうございませう。
皆様方におかれましては
お健やかに新年をお迎えの
ことと存じます。

また、平素から社会福祉協議会に對しまして、多大なるご支援、ご協力をいただき謹んで感謝を申し上げます。
昨年は、東日本大震災を経験し、自然の力の脅威を改めて痛感させられた一年でした。あらゆる困難の中で、助け合い、支え合う「互助」の精神がいかに重要であるかを学びました。復興に向けて地域の皆様、企業、団体、ボランティアの方々
の共助の精神がますます必要となつてきています。
誰もが住み慣れた地域に

辰年
今年の抱負は

平成12年生まれ



川井華林さん(石塚)

今年、六年生になる私の目標は「六年生としてしっかりとしたお手本になりたい」という事です。学校の行事は、運動会など、六年生が下級生を引っばつていく事がたくさんあります。良
いお手本になれたと思える一年間にしたいです。

昭和63年生まれ



川崎 護さん(石塚)

年男でもあり、厄年でもある年です。仕事にスポーツ、遊びや人との交流が多くなる年だと思つて
います。今年の抱負は、仕事に
関して力を入れていきたいと
考えています。今までは人に
言われてから行動していたの
で、今年からは自ら考え、進んで
動けるように意識し努力して
いきたいです。

昭和51年生まれ



高野祐一さん(塩子)

昨年、東日本大震災に見舞われ、多くの

人が被災しました。私もその一人ですが、この地に立てている喜びを感じております。この教訓を活かし、今年は「生きる喜び」を感じられる、充実した年にしたいと思いま
す。

昭和39年生まれ



入野和彦さん(石塚)

「年男の抱負」という原稿の依頼を頂いて、今年48歳になる現在の自分が、12歳、24歳、36歳の過去の自分に、改めて問
いかけてみました。

反省しなければと思わせる返答ばかりでしたが、『自由』『情熱』『勇氣』など、忘れかけていた事も思い出す事が出
来ました。

辰年だからといつても、「天翔ける龍が如く」の様に格好
いい生き方は出来ませんが、
過去の自分に教えられ、未
来の自分に恥じないために
も、これからの一年を、出来
る限り自分らしく生きて行き
たいと思ひます。

昭和27年生まれ



小松崎 誠さん(阿波山)

これまでこの年男を振り返ると、
東京オリピック、第一子(長女)の誕生、時代が昭和から平成へと

心に残る思い出がある。60歳を迎えたと永年の県職員を定年退職。残した宝は子供3人、孫8人。共に歩んできた女房に感謝。

昭和15年生まれ



中尾常治さん(石塚)

御多分にもれず、足腰が弱つて約10年、運動不足は、百も承知で勝手気ままな毎日です。71歳になり未だ1歳未満の孫二人、遅ればせな感と、可愛さも加わり、足の痛みをこらえベビーカーを押して乍らの日々。ただただ孫達に感謝。すこやかに人
を思いやる子供にと、願いつつ
今日も押しています。

昭和3年生まれ



飯村 望さん(阿波山)

あつと、う間に、八度目の年男を迎えました。私は「歳だから」という言葉が好きではないので、使われないことにしており、歳を聞かれると「まだ84だよ」と答えることにしています。

身体は何か所もガタがきていますが、気持だけはパワーとユーモアのある生活を心がけ、いつまでも万年青年の気持で、これからの人生をエンジョイしたいと思つていま
す。



第7回城里町表彰式典

城里町社会福祉大会

— 善意あふれる和やかな雰囲気の中かで —

標記表彰式典及び社会福

祉大会が11月25日（金）、城北公民館・体育室でおこなわれ、会場は暖かく和やかな雰囲気に含まれていました。

社会福祉の分野で表彰を受けた方々は、一人暮らしの高齢者の安否を気遣って定期的に訪問したり、弁当を作り届けた

り、高齢者と絵手紙などで心の交流をはかったり、運転で移動を助けたり、街の環境美化、例えば公道を花壇でうめたり、といった活動をボランティアで行なっている人たちです。総勢、一団体と99名の街の福祉と住みよいまちづくりの一翼を担っている方々です。町長は挨拶で

受彰者への心からの感謝と今後の変わらない活動への期待を述べました。受賞者は以下の方々です。

◆ 自治表彰

城里町長表彰受賞者

小林 利信、青柳 輝夫
仲田 一司

◆ 一般表彰・表彰状

萩谷 晃、塙 一郎
大越 孝啓、磯部 長司
阿久津春雄、(故)飯村幾子
瀬谷 博子、加藤 三郎
磯部 長司、加瀬 勤
細谷 敬子、所 好夫
鯉淵 善子、高野 静
三村 壽子、小林 通代
関口恵美子、袴塚 隆雄
興野 正江、小林 彦一
松島 典子、根本 清美
広沢クリナク 院長 広沢 邦浩
小山司農夫、(株)カスミ

◆ 一般表彰・感謝状

根本 一雄、清水 誠
綿引 芳紀、小堀 正敏
福田 定夫、浅野 益男

小野瀬廣元、大高 一夫

細谷 貞好、園部 静

水井 英彦、大塚 隆士

浅野 徹、石川 久枝

鯉淵 廣四、芝谷 英夫

(財)水戸法人会城里地区会

水戸農業協同組合、(株)常

陽銀行、群馬県町村会

(有)ジェイエイ水戸グルー

プサービス、(社)茨城県自

動車整備振興会水戸支

部、龍谷院檀信徒一同

茨城県猟友会城里支部

茨城中央農業協同組合

エステイコンサルティン

グ(株)、(株)サイネックス

(株)筑波銀行、(株)カクライ

磯部材木店、ヤマト運輸

(株)茨城主管支店、(財)日本

自動車研究所

◆ 民生委員児童委員

城里町社会福祉協議会会長 表彰受賞者

羽部 輝子、線引 幸年
大越わくり

◆ ボランティア

磯部 和子、仲田 昭子

富田 敏江、興野 芳恵

飯村ひろ子、川又 誠子

西野あきの、山口 和枝

塩沢つや子、阿久津千枝子

羽根石ミヨ子、和氣 且枝

富田 英子、福田 利子

寺門 茂雄、入野きみ子

檜山 裕子、須藤 公子

園部 道代、稲富 典子

萩谷きよ子、大森 久子

大越みつ子、菊地 敬子

和田 順子、橋本千恵子

飯村 陰子、卜部 和子

仲田いつ子、阿久津幸子

高松 富子、林 たい子

入野 百壽、大越 功

杉山 フサ、和田 明美

大門洲美子、大越 房枝

助川 義雄、添田 昭

仲山 節子、小山 輝子

萩谷 進、永山 純子

森島 珠江、常北保育園

父母の会、みどり保育園

茨城県立あすなろの郷

◆ 社会福祉協議会役員

磯部 長司、仲田 一見
園部 豊三、塙 一郎

猿田 道夫、関 合志

◆福祉団体

園部 豊三、山崎 勉
桑野 光三、飯田 博
関野 節子、川井 昭
笹島 弘平、小林 利信
小林 芳藏、所 治
所 好夫

◆善意銀行

添田 郁子、仲根 昭友
関野 寿、森田 育穂
飯村 一則、(故)檜山 弘
大畠 宗夫、山崎 秀雄
稲川 武夫、森 健一
飯村八重子、大越 正子
久野美代子、邊見亜津子
桐原 元、田上 修
三村 信明、城里町文化
協会、青山ふるさと祭り
実行委員会、増井一区
与三郎庵、第9回那珂川
鮎釣り茨城大会2010
実行委員会、水戸ヤクル
ト販売(株)、城里町くらし
の会、常北女性会、輪を
広げる会、城里町ダンス
スポーツ連盟、利根コカ・
コーラボトリング(株)常陸

大宮支店、城里町商工会
女性部、茨城県布教師会
城里町歯科医師会

茨城県社会福祉協議会長
表彰受賞者

上坪フラワーボランティアの会

城里町花いっぱい運動
コンクール入賞団体

◆地域の部

最優秀賞

錫高野生産クラブ

優秀賞

勝見沢区、上坪フラ
ワーボランティアの会
上坪長寿会

◆学校の部

最優秀賞

城里町立石塚小学校

優秀賞

城里町立七会小学校
城里町立沢山小学校

いも煮会とかかし祭り

11月20日(日)、県道246号
線に隣接する広場で、第2回
いも煮会とかかし祭りが開催
されました。



ミドリネット錫高野と子供
会の共同主催。会場の準備と
いも煮作りは、錫高野いき生
きクラブの会員が担当。小雨
の中準備に大忙しでした。

かかしは各自治会(9自治
会)ごとに出品、また各種団
体の出品もあわせ23体が展示
され、道行く人達の目を楽し
ませていました。

また三世代の交流会も行わ
れ、ペットボトルの水ロケッ
トを打ち上げました。子供も
お年寄りも大喜びでした。

地区の活性化のために区民
総意で始まったお祭りなの
で、今後も続けていきたいと
三村区長は語っていました。

つくしの四季

12月10日(土)、常陸太田
市にあるパルティホールにて
ナイスハートふれあいフェス
ティバルが開催されました。
この催しは、毎年茨城県県民文
化センターで開かれる福祉の
イベントで、各々の施設の製
品、産物、展示・展覧、そし
てステージ発表などで毎回賑
わっています。今年も、地震
の影響で場所が変わりました。
つくしも、通所者8名、指
導者6名、ボランティア3名、
総勢17名が団体として初めて
参加しました。

今回は、よさこいやフラダ
ンスなど踊りが多く他に印象
に残ったものでは、南京玉簾
です。いっけん簡単そうに見え
て難しく、一つ感じたのは仮
装の原形ではないのかなとい
うことです。何だか歴史を感
じさせられた日になりました。

また、テーマは茨城県の有
名なもので、竜神橋や袋田の
滝、偕楽園の梅など地元の人
にとってもわかりやすかったの
でとても楽しめました。

それから12月14日(水)は、
クリスマス会がありました。
スペシャルゲストにイオン
笠間店からサンタクロースと
トナカイとスノーマンが来て

くれました。一緒に歌を唄つ
たり、レクリエーションをし
てとても楽しく過ごすことが
できました。最後には、プレ
ゼントとケーキをいただきました。
サンタクロースさん、トナ
カイさん、スノーマンさんあ
りがとうございました。
また、イオン笠間店のみな
さん、毎年ありがとうございます。
ます。

今年も、地震など悲しいこ
とがありました。来年は、この
まま走り続けてきました。
そんな悲しいことがあった
分、また良いことが戻ってき
ます。

このかざぐるまが発行され
る頃は、もう年が明けていま
すが、良いお年と良いお正月
をお迎えください。
それから今年もよろしくお
願いします。(加藤直)



作業所でのクリスマス会

わが町の活躍者
花いっぱい運動で優秀賞
 興野 一秀さん(上坪)

興野一秀(72歳)さんは、上坪長寿会の会計を6年間つとめ、昨年から会長に就任されました。小・中学の同級生である幼なじみの添田通さん、佐川勉さんが副会長となり、息もぴつたり



興野 一秀さん

の会の運営がなされています。また昨年9月には、県老人クラブ連合会のモデル老人クラブとして表彰されています。

会員数77名の上坪長寿会には、健康づくり・仲間づくりとしてのスポーツ活動、奉仕活動として神社境内の清掃などの活動があります。また子供会・長寿会・区民が一緒になって行う、

米作りの三世交代流事業があります。昨年5月の田植えに始まり、9月に稲刈り、そして11月には旧坪小学校で収穫祭が行われ、120名ほどが参加し賑やかに行いました。

また花いっぱい運動花壇づくりでは、旧坪小学校の通りの向い側に、道路に沿って約20坪の花壇を作っており、パンジー、サルビア、水仙などの四季の花々が、道行く人の目を楽させています。しかし水やり、草取りなど花壇の手入れは大変です。



泥んこになって田植え



皆で花壇の草取り

4月頃にはかなり茂った草取り作業です。およそ2ヶ月ごとに行います。朝8時頃から開始するのですが、興野さんが着く頃には、既に20数名の方が作業を始めており、「ありがたい限りです」と語っておられました。そんな陰の苦勞の甲斐あって「23年度城里町花いっぱい運動コンクール」では優秀賞を受賞しました。親睦を深めるため「そば打ち」「研修旅行」など色々な企画していますが、「皆さんが協力してくれませんか」と控え目に語る興野さんには、やさしさが溢れていました。

城里町の動物園へどうぞ

城里町七会保健センターの玄関を入ると、正面の大きな箱の中に沢山の動物がいました。ペーパークラフトの動物たち、キリン、ゾウ、コアラ、パンダの親子、美しい羽根を広げた孔雀、それは見事で、とてもファンタスティックでした。

今年も楽しい作品を作った公民館まつりに出品しようとして、社協デイサービス利用者約40名の方達と、職員のみなさんがいろいろな意見を出しあい計画を練り、動物園を作ることになりました。

昨年には続き2回目の作業なので少し手際よくなり、紙を切る人、色をぬる人、色紙をちぎって貼る人等、それぞれ手のあいた時間を利用してみんなで製作に励みました。最初は無関心だった人も、時間がたつにつれてそれとなく参加して作業の仲間に入



入ってきました。思いがけないアイデアを出したり、楽しく作業が続きました。まわりは、縞馬の模様のようにと、それぞれの思い入れがあり、縦縞にしたり横縞に描いたりしました。動物園に入園する人達を歓迎する可愛い6匹のリスも、飾りの花も彩とりどりで、大きさを取りつける位置等、みんな考えて、意見をきいて飾りました。作品は8月初旬の頃からつくりはじめて、11月の公民館まつりに出品することが出来ました。昨年に続き今年も動物園も好評でした。現在は城里町常北保健福祉センター1階の正面に置かれ、来所者の目を楽させています。

手話を学ぶ

② 挨拶の表し方

1回目の「手話を学ぶ」はどうでしたか。

手話を少し理解していただけでしょいか。

2回目も1回目に引き続き「挨拶の表し方」を取り上げたいと思います。

手話は「目で見てわかる言葉（視覚言語）」、相手ときちんと対面して、ゆっくりに、わかりやすい様にチャレンジして下さい。

挨拶の表し方

「こんにちは」
こんにちはは「昼の挨拶」という意味を手話にしています。



① 昼 (正午)

人差し指・中指の2指を伸ばし、左右手を顔の中央に当てます。

これは顔を時計に見立ててあり、2指は時計の針を表しています。この手を右から顔中央にもっていくと「午前」と言い手話になり、顔から左へ落とすと「午後」と言い手話になります。



② あいさつ

左右の人差し指を向い合わせて、下り曲げます。

「こんばんは」

こんばんはは「夜の挨拶」という言葉の意味を手話にしています。



① 夜

夜は暗くて辺りがよく見えないうつらな目で目の前で両手を交差させます。



② あいさつ

左右の人差し指を向い合わせて、下り曲げます。

「よろしくお願いします」

よろしくお願ひしますは「良くお願ひします」という言葉の意味を手話にしています。



① 良い

右手でにぎりこぶしを鼻に当て、次に少し軽く前に出します。



② お願いします

右手の5指を揃えて鼻のところから前に少し出します。お願い頼むという意味の手話です。

「ありがとう」



ありがとう

左手甲にのせた右手を上にあげます。

大相撲で勝った力士が軍配の上の賞金をもらう動作を取り入れたものです。

ボランティア活動パネル展

ボランティアアミニ体験

平成23年11月18日(金)から20日(日)の3日間、イオンモール水戸内原で城里町を含む近隣の6市町のボランティア活動パネル展(中央ブロックボランティア活動推進会議主催)とボランティアアミニ体験が行われました。多くの親子連れに見ていただき、又、ボランティアアミニ体験に参加してもらえました。



盲導犬をそばに説明をする浅野さん

シルバーリハビリ体操をしたり、手話体験では、パネルを使って手話表現を考えてもらい、日頃から何気なくしている仕草に、手話

犬の育成の現状を教えてもらい、特別に盲導犬に触らせてもらえました。普段、盲導犬には触れる機会がなかなかありませんが、盲導犬への理解を広める為にご協力いただきました。

日曜日という事もあり、多くの親子連れの方が参加していました。この体験を通して多くの人々に福祉への関心と理解を持っていただけたらと思います。



展示された城里町の活動パネル

わが町のさわやか元気さん 24

飯村 豊一さん 89歳 眞端 スミエさん 88歳

豊一・スミエさんご夫妻は、息子さんの家族と暮らしてはいますが、別棟で生活してはいます。スミエさんは病気の後遺症で少し足の不自由な豊一さんを心配して毎日の食事に気を配り、月1回、診療所へ健診に行っています。今は2人共健康です。家の仕事を息子さんに任せて、裏山からの湧

阿久津とみ子さん 86歳 小勝

とみ子さんと長男ご夫妻とのお住まいは、のどかな心安らぐ広い敷地の中にあります。

月に1度、地元の診療所で定期健診を受けています。がすこぶる健康です。シックな装いと、薄紅をさしたとみ子さんの表情は年齢を感じさせません。趣味は50年続けている編



水で30年来の趣味である鯉の飼育、金魚を孵化させて稚魚を育て、多いときは、200匹にもなり、旧徳蔵小学校に寄贈したり、親戚や近所あげたとの事でした。現在は100匹位いるそうです。裏山の木を伐ってから湧水が無くなり地下水を利用しているとのこと。何歳になろうと、趣味を持ち、生甲斐のある日々を送っていることで、若さと健康を保っているのではし

物とカラオケです。週3回のクローケーは20年続けています。ペタンク・グラウンドゴルフも、レギュラー選手と



お嫁さんとお二人の会話も和やかで幸せそうでした。これからも、お健やかに年齢をお重ね下さい。

して活躍しています。ご主人は25年前に亡くなられました。戦後の自給自足の時代、苦勞も有りましたが、それも幸せな思い出の事です。買物、運動、女学時代の旧友との旅行は、すべてお嫁さんのみさ子さんが送迎をしてくれるので安心して外出が出来るとの事です。今年もとみ子さんにとつて幸せで、健康な1年であります様に。

介護予防講演会開催のお知らせ

誰でも住み慣れた地域で自分らしく楽しくすごしていたいものです。

介護はいつかは訪れることではなく、身近なものとして日頃から考えなければなりません。今回の講演会ではシルバリーハビリ体操指導士の活躍により各地で開催している「ふれあいサロン」をご紹介します。また基調講演には常磐大学教授の池田幸也氏をお迎えいたします。是非、お越し下さい。

日時 平成24年2月15日(水) 午後12時45分

会場 旧小松小学校 体育館

お問い合わせ

城里町社会福祉協議会 TEL029128817013

目次

- 初日の出.....1
●新年のごあいさつ.....2
●辰年 今年の抱負は.....3
●城里町民まつり.....3
●しろさと①「仏国寺」.....4
●城里町社会福祉大会.....4
●いも煮会とかかし祭り.....5
●つくしの四季②.....5
●さらっと生きろ.....6
●城里町の動物園へどうぞ.....7
●手話を学ぶ②挨拶の表し方.....7
●ボランティア活動パネル展.....7
●わが町のさわやか元気さん②④.....8
●介護予防講演会のお知らせ.....8
●目次.....8
●編集後記.....8

編集後記

昨年3・11に発生した東日本大震災からはや、10ヶ月が過ぎました。未だ町のあちこちには倒れたままの石垣や青いビニールシートのかかった屋根がみうけられますが、着実に復興に向かっていくことは確かです。人は災害に会う度に、驚く程の早さと力強さで元の生活を取り戻してきました。きつと今度も人と人とのつながりを通してすぐに普段の生活が出来るようになることと思います。

昨年中は「かざぐるま」をご覧いただきました。毎号の編集に当たっては委員一同神経を集中させ複数の会議を持ち、より良いものをお届けしようと努力していますが、それでも取材や投稿いただいた方々の気持を正確に伝えられているのか常に疑問を持っていることも確かです。これからも『かざぐるま』をよろしくお願

(わ)